

■■メールマガジン「静岡県防災」第70号■■

～ 災害はいつ、どこにいても起こりうる現実 ～

12月8日（月）23時15分頃、青森県東方沖でマグニチュード7.5の地震が発生し、最大震度6強を八戸市などで記録しました。

死者は出なかったものの、青森県の公表資料によると12月23日時点で31名の負傷者が発生しています。

八戸市内の海に近いショッピングセンターは、津波避難ビルに指定されていたため、地震直後の、凍てつく真冬の深夜に200人近い方が屋上に避難しましたが、営業時間外でトイレも使えず帰宅する方もいたそうです。

7月30日（水）のカムチャツカ半島付近の地震は朝方で、本県でも津波警報が発表されましたが、今回は冬の夜間でした。沿岸地域にお住まいの方、通勤・通学等で沿岸地域に通われる方、沿岸地域におでかけになる方それぞれが万一の避難行動について考える機会としたいものです。

12月15日（月）には、台風第15号に伴う竜巻災害等で大きな被害を受けた牧之原市において、中長期的に被災された方の見守りや支援を行う「牧之原市ささえあいセンター」が開設されました。センターは市の社会福祉協議会内に設けられ、生活相談員等が被災された世帯を訪問し、専門機関とつなぎ、生活再建を支えるものです。

まもなく、令和6年能登半島地震から2年を迎えようとしています。

元日が多くの方の鎮魂の日であることなども踏まえると、災害はいつ、どこにいても起こりうる現実を痛感せざるを得ません。

能登半島地震をはじめ、県内の被災地域の1日も早い復興を祈念しつつ新たな年を迎えたいと思います。